記念講演３．「中国における学会の発展状況と国際交流」

馮　長根　中国科学技術協会書記処書記

尊敬する沖村理事長、有馬先生、専門家の皆様、こんにちは。まず、中国科学技術協会を代表いたしまして、ＪＳＴ中国総合研究センターの設立に心からお祝いを申し上げたいと思います。このセンターが設立されたことは中日双方の科学技術の交流に幅広い情報交換のプラットフォームが打ち立てられただけでなく、中日科学技術者同士が協力研究を行う機会をより多く提供することになります。私は、本日、中国総合研究センターのオープニングシンポジウムで、中国科学技術協会の代表といたしまして、このシンポジウムに参加されている専門家の皆様に、中国学会の発展の現状と国際交流状況についてのお話をしたいと思います。

中国の学会の発展の現状と国際交流の状況を御紹介いたします前に、関係がとても深いものですから、中国科学技術協会の紹介を少ししてみたいと思います。中国科学技術協会の成立ですが、その前身は中華全国自然科学専門学会連合会と、中華全国科学技術普及協会です。1958 年９月に、この２つの組織が合併いたしまして、初めての全国代表大会が開かれております。そしてここで中国科学技術協会が正式に発足しております。（講演資料Ｐ３参照）

中国科学技術協会の基本的な状況ですが、自然科学、技術科学、エンジニアリング、及び科学技術の普及を促進することを趣旨とした 190 の全国の学会がございます。また 3,600 の省レベル、地区レベルの市の学会があります。また 31 の省レベルの科学技術協会、及び幅広い地方・末端の科学技術協会組織がございます。全部で 400 万人以上の非営利的・非政府の科学技術団体となっております。（講演資料Ｐ４参照）

質問をしたいと思います。中国科学技術協会の趣旨は何でしょうか。７つあります。まず１つ目が、学術交流を展開していくこと。２つ目が、科学技術の普及。３つ目が、科学技術に従事している人たちの合法的な権益を守り、こうした人たちの意見や要望を反映させること。そして４番目に、優秀な科学技術スタッフを表彰し、人材を推薦すること。５つ目に、科学の論証を展開し、コンサルティングサービスや政策提言を行ったり、科学技術成果の実用化を促進すること。６つ目に、民間の国際科学技術交流活動を展開していくこと。外国の科学技術団体や科学技術に従事している人たちとの交流を発展させていく。７つ目に、教育と訓練です。（講演資料Ｐ５参照）

それでは、中国科学技術協会の大会の主席についてのお話をします。設立してから現在

まで 50 年間たっておりますが、1960 年代、1970 年代に、中国は文化大革命の影響を受けまして、少し中断した時期がございますが、1980 年から５年に１度の全国代表大会が復活しております。今年の５月に第７回全国代表大会が開かれておりまして、現在の主席は中国全国人民代表大会常務委員会の副委員長でもあり、中国科学院の会員でもあり、また医学専門家でもあります韓啓徳教授です。今まで主席になられた方は、地質学者の李四光さん、物理学者の周培源さん、応用力学・工程制御論・システム工学の銭学森さん、核物理・原子力物理学者の朱光亜さん、理論物理学者の周光召先生などです。（講演資料Ｐ６参照）

中国科学技術協会の成立と発展は、学会の発展と切り離せないものです。それでは次に、中国の学会の発展の現状について御紹介したいと思います。まず、歴史的沿革についてのお話をしたいと思います。中国の学術的団体の歴史というものは、1568 年までさかのぼることができます。当時出てきた中国の歴史上で初めての学会というのは「一体堂宅仁医会」という名前で呼ばれていた学会でして、そのときから幾つかの世紀を経てまいりまして、1958 年に中国科学技術協会が設立しております。そしてこの学会の発展は大変大きな変化を経てまいりました。20 世紀の後半になりますと、学会の発展は中国政府や社会全体の支持を受け、重視されております。特に改革開放が二十数年以上進んでおりまして、学会は国家の政治、経済、社会、科学技術の中での役割や地位がどんどん高まってきております。例えば中華医学会は既に四十数万人の会員がおり、年収入が１億人民元という大きな学会に発展しております。（講演資料Ｐ７参照）

学会の分類についてのお話をしたいと思います。中国の科学技術協会に所属する全国学会の中で、選挙権がある、あるいは被選挙権があるのは 167 の学会でして、そのうち理科系統が 41、工科学会が 64、農科学会が 14、医科学会が 22、学際的な学会が 26 あります。全国の学会の会員は 400 万人近くになっております。そして 23 の選挙権、被選挙権のない学会があります。（講演資料Ｐ８参照）

2005 年の統計によりますと 167 の全国の学会で、下部組織が 3,297 できておりまして、408 万 5,597 人の会員がいます。組織会員が２万 7,421、学会のスタッフは 2,117 人。平均して１学会当たりスタッフは 12.68 人ということになります。最も会員数が多いのは中華医学会で、43 万 277 人おります。（講演資料Ｐ９参照）

それでは次に、学会の統計についてお話しします。この図は、学会の収入源の状況です。167 の全国学会の経費は 2005 年で４億 4,737 万 4,000 人民元で、学会平均で 268 万元です。そのうち学会の活動による収入は２億 2,381 万元で 50.03%、政府の援助が 4,885 万元で 10.92%を占めております。それから寄付は 3,410 万元でして、これが全体の 7.62%。中国科学技術協会の支援が 2,848 万元で 6.37%を占めております。委託業務による収入が 2,730 万 2,000 元で 6.1%。会費による収入が 2,620 万元でして全体の 5.86%を占めております。中華医学会の年間の経費総額が最も高く、9,405 万 4,000 元となっております。（講演資料Ｐ１１参照）

２つ目は支出の状況です。167 の学会の年間の経費の使用総額は３億 9,227 万元で、平均

して１つの学会当たり 235 万元を使用しております。うち、学術活動に使われているのが１億 2,403 万元で、31.62%。科学技術の普及活動に使われている額が 1,211 万元で 3.09%となっております。（講演資料Ｐ１２参照）

それでは質問をします。中国の学会には、どういった活動があるのでしょうか。学会の趣旨にあわせて、各種学術交流活動の展開、科学の普及と宣伝の実施、及びコンサルティング業務への参加をしております。（講演資料Ｐ１３参照）

学術交流は３つの種類に分かれるのですけれども、まず、学術会議は国内学術交流と国外学術交流があります。2004 年に全国学会は 2,981 回の学術会議を開催しました。その他に中国科学技術協会と全国学会は年一回共同で 6,000 人前後が参加するような総会を行っております。２つ目に、科学技術定期刊行物。2004 年までに、167 の全国学会で科学技術定期刊行物は 1,021 種類を出版しております。それは全国で出されている科学技術の定期刊行物 4,487 種類の 22.75%を占めています。中国科学技術協会と全国学会は毎年学術会議及び定期刊行物に半々の比率で合計約 100 万件の論文を発表しています。３つ目に、コンサルティングです。全国の学会は政府や社会のさまざまな重大な政策、科学技術計画や科学技術プロジェクトにコンサルティング（提言）をしております。2004 年に学会が出した提言は 3,336 項目で、その中で採用されたものが、重大なもので 218 項目あります。（講演資料Ｐ１４参照）

それから、また質問を出したいと思いますが、中国の学会の学術交流には、どういった特徴があるのでしょうか。主に３つございます。１つ目に、部門を越え、系統を越えた横の関係が大変多く、総合的で学際的な学術交流の動きがあるということ。２つ目が、経済・社会発展におけるホットポイント、難点、焦点となっている問題をテーマとして選び、重大な事件に対する反応速度を高めています。３つ目に、学術活動の社会化が大変進んでいるということです。学術活動は企業・市場ニーズに密接に結びつき、形式が多様化し、運営メカニズムが徐々に専門化し、情報化しています。（講演資料Ｐ１５参照）

それでは次に、中国の学会が直面しているチャンスと挑戦についてのお話をします。まず、最初にチャンスの方からお話したいと思います。チャンスの１つ目は、需要の空間が拡大したということです。開放改革が進むにつれて中国の社会・経済は大きな変化を見ております。科学技術スタッフの構造や分布、組織や利益関係といったものが大変複雑になり多様化しております。新しい世代の科学技術に従事する人たちは、科学技術団体が彼らを受け入れ、彼らの学術の成長のためにサービスを提供し、彼らの合法的な権益を擁護してくれることを切実に望んでいます。（講演資料Ｐ１６参照）

また、中国の政治体制改革の変化によりまして、今まで政府が受け持っていた管理事務を、団体や学会が担当するところが多くなりまして、その範囲が拡大しております。科学技術の評価、科学技術に携わる人たちの評価や奨励といったものについて、学会が携わることが非常に多くなってきています。（講演資料Ｐ１７参照）

そして、イノベーション型の国家戦略の実施にともない、学会が科学技術知識を広めた

り応用したり、社会・経済・政治・文化の発展の中で果たす役割がさらに大きくなっております。政府は学会が国の経済と国民の生活に関る社会の難しい問題について、さらに多くのコンサルティング（提言）を出してほしいと願っており、企業やその他の社会組織は、学会の人たちが科学技術人材情報、国際交流といった面で、権威ある科学技術支援をして欲しいと希望し、一般大衆は科学思想、科学的方法、科学知識の普及といった面でより多くの手助けを提供してほしいと願っています。（講演資料Ｐ１８参照）

２つ目の問題ですが、今度は挑戦の方です。伝統的な学術交流の機能が挑戦を受けています。インターネットといった近代的なメディアが広まる中で、もともと会議や定期刊行物といった伝統的なやり方で行っていた学術交流活動が打撃を受けております。形式、方法、内容といった面で、大変大きな変革の時期になっています。（講演資料Ｐ１９参照）

学会の発展のアンバランスもさらに拡大してきております。地域的、資源的、業界、あるいは改革に対する適応能力といった、さまざまな影響がありまして、学会の活動能力やサービス提供能力、求心力といった面での格差が徐々に拡大する方向に行っています。強い学会は、さらに多くの社会資源を吸収する状態になっています。（講演資料Ｐ２０参照）

学会とともに、こういったさまざまな挑戦を克服し、多くの機会を得るために、学会を結ぶ組織として、中国科学技術協会は学会の改革をここ数年の重点事業としており、学会のより一層の発展を推進しております。（講演資料Ｐ２１参照）

学会の発展は、国際協力と切り離すことはできません。学会の国際協力についてお話したいと思います。全国の学会が、200 以上の国際民間科学技術組織に参加しています。400 人近くの中国の科学者が、その中の 150 の組織で指導者となったり、あるいは専門機関の中で職を得ています。中国科学技術協会は 27 の国と地域の民間の科学組織と協力交流関係を結んでおり、52 の二国間協力協定に調印しております。香港、マカオ、台湾地域も含めた民間科学技術団体との間でも、大変素晴らしい協力関係が結ばれております。（講演資料Ｐ２２参照）

1996 年以来、学会が来訪を受け入れた各国の科学技術団体・グループは１万 3,000 近くあり、人数にして 10 万人以上に上ります。学会及び科学技術協会から国外へ派遣し、国際科学技術会議、または科学視察に参加させた団体・グループは 6,800 余り、人数にして約５万 5,000 人となります。学会はまたさまざまなルートを通じまして、企業に科学技術スタッフを派遣したり、管理者を派遣したり、国外での職業訓練や技術研修に参加させたりしています。（講演資料Ｐ２３参照）

政府の支持を得まして、ここ数年、全国の学会が行った国際会議の中で有名なものとして第 30 回国際地質大会ですとか、第 62 回国際図書館連盟大会、第 47 回国際宇宙航空連合会年次総会、第 20 回世界建築士大会、第 16 回世界コンピュータ大会や、第 14 回国際自動制御連合会世界大会、第 24 回国際数学者会議、世界エンジニア大会及び国際科学連合第 28 回理事会といったものがあります。国際的な科学技術界からも大変好評を博しております。（講演資料Ｐ２４参照）

友人の皆様、科学には国境はありません。私たちがともに努力することで、中国と日本の科学者が、さらに大きな科学協力のプラットフォームをつくりたいと思います。そのために努力したいと思います。（講演資料Ｐ２５参照）

ありがとうございました。